

熊本 県大COC通信

熊本県立大学
COC推進室

もやいすと(地域)ジュニア育成・シニア育成

—— 成果発表会を開催しました

本学COC(地(知)の拠点)事業の中心的な取組である「もやいすと育成プログラム」において、「もやいすと地域ジュニア育成」と「もやいすとシニア」育成の発表会を10月10日(土)に開催しました。(本学HPに詳細を掲示)約270名の学生が、阿蘇・玉名・菊池の3地域に分かれて課題解決について学び、自分たちの活動の成果を発表しました。

本学では、地域でリーダーシップを発揮し、人と人とを繋ぐことが出来る人材を「もやいすと」と定義しています。この「もやいすと」の育成を目指すプログラムの第1ステップとして「もやいすと(地域)ジュニア育成」と「もやいすと(防災)ジュニア育成」(全学1年次生の選択必修)、第2ステップとして「もやいすとシニア育成」(本年度のみ自由科目)が今年度より開講しました。このプログラムの過程を紹介します。

5月の「もやいすと(地域・防災)ジュニア育成」の開講式では、古賀学長から「もやいすととは何か」について講義が実施され、学生達は初めて「もやいすと」に触れました。その後「もやいすと(地域)ジュニア育成」を履修する学生(以下、ジュニア)を5名1班の全51班に編成し、さらに阿蘇・玉名・菊池の3グループに



「もやいすと(地域)ジュニア育成」と「もやいすとシニア育成」の授業を担当する津曲教授。3月から、もやい塾のメンバーと授業の中身を創り上げてきました。



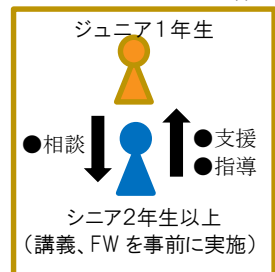
古賀学長の講義。もやいすとの創設メンバーとしてもやいすとの育成に情熱を注がれています。

分けて、各地域についての講義や自主学習、ワークショップを行いました。一方、「もやいすとシニア育成」も6月に開講。ファシリテーターシヨンスキルや調査手法について、実践を交えて学び、さらに7月の講義からは、ジュニアの学生の活動支援も行いました。

夏休みの間も活動は続きました。ジュニアの学生は「もやいすと」に関する書籍の要約や意義について考える課題に取り組み、シニアの学生は地域事前学習や「もやい塾メンバー」(もやいすと全体を支援する3年〜院生の自主研究グループ。シニアを兼任)と共に、情報発信と情報共有の方法を学びました。

9月には集中講義を実施。初日は、ジグソー学習(協調学習。班内で学習課題を分割し、個々の担当する学習課題を同じ学習課題を担当したものと

ジュニアとシニアの関係



7月にもやいすとシニア任命式を開催。1人1人目標を決め、覚悟と責任を持ち取り組みます。



「もやいすと(地域)ジュニア育成」の授業にシニアの学生は毎回参加し、準備や支援、反省を通して自らの学びを深めます。シニアは担当の津曲教授やもやい塾メンバーと共に、夏休みの多くの時間を授業の準備や活動に費やし毎回の授業に臨みました。



で作ったグループで調査し、それぞれが学んだことを班に戻り報告・共有する学習手法)を用いて、熊本文化・自然・経済の分野に分かれて講義を受講しました。受講後は同じ分野を学んだ学生同士で学びを深め、グループに戻り学びを共有しました。その後は、内容に関する理解度試験に臨み、学びの定着を図りました。班のメンバーが3分野の講義を分かれて受講しているため、学びを班内で互いに教え合い共有できなければ、試験での高得点は狙えません。「もやいすと(地域)ジュニア育成」ではこのジグソー学習が効果的に用いられました。

2日目は、阿蘇・玉名・菊池から招聘した講師から地域の現状について講義を受け、午後は与えられた共通のテーマと自分たちが感じる課題について考え、

ジグソー学習の概要



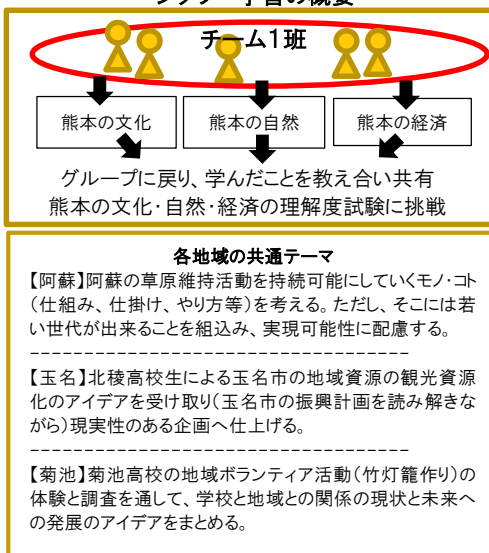
阿蘇地域



玉名地域(シニアも同行)



菊池地域(シニアも同行)

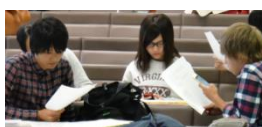


翌日のフィールドワークに向け準備を行いました。3日目は各地域に出かけフィールドワークを実施しました。阿蘇グループは輪地切り体験、玉名グループは北陵高校との地域資源調査・ワークショップ、菊池グループは菊池高校とのフューチャーセッションと竹灯籠づくりを行いながら、地域課題に関する現地での取材・調査を進めました。

午後の発表会では、阿蘇・玉名・菊池のフィールドワークでお世話になった市や高校の方々を迎え、草原維持活動、地域資源の観光資源化、学校と地域の連携(域学連携)について、自分達の調査成果に加え、提案やアイデアをまとめたプレゼンテーションを行いました。一方で、他の班の発表を評価シートに従って評価し、優秀な3班をWEB投票で選出しました。ジュニアの発表後は、シニアによる発表も行われました。ジュニアよりレベルアップした課題を、インパクトのある表現で発表しました。学生投票の結果、各地域から最優秀班と優秀班が選ばれ、古賀学長から賞状と副賞の授与がありました。



情報処理実習室の熱気や学生のやる気は相当なものでした。



シニアは教室の端に並び常に支援できる体制で待機します。

10月10日(土)に、「もやいすと(地域)ジュニア育成」もやいすとシニア育成」の約4ヶ月に及ぶ活動の集大成として、本学で成果発表会を開催しました。当日はジュニアが地域別の3会場に分かれて、5分間の発表に全力を注ぎました。まず、午前中のジュニア発表会直前準備では、シニアからの支援を受けながら、内容や発表の仕方について最終調整を行いました。また、当日の発表会の運営をもやい塾のメンバーが担いました。

もやいすと(地域)ジュニア育成の開講から発表会までの軌跡は、もやい塾のメンバーらにより1本の動画にまとめられ、本学のHPに掲載しています。事前の学習や準備を経て、県内各地域を舞台に活動する学生達の様子をぜひご覧下さい。



各地域の最優秀班。



各地域の優秀班。



この夏を全力で駆け抜けたシニアともやい塾の学生達。



ジュニア全 51 班とシニア全4班の全ての班が各地域のテーマに沿った発表をしました。

した。もやいすとジュニアの経験や学んだことを糧に、今後は自分達がシニアとなり、ジュニアの育成やさらなる成長を目指して行きます。



シニアはジュニアの前で最後の挨拶。新たなシニアの誕生に期待します。